生活単元学習指導案（細案）

平成31年２月１日金曜日２校時(９：40～10：25)
小学部３組　男子３人　女子２人　計５人
場　所　　小　学　部　３　組　教　室
指導者　中薗　良彦(CT)　岩下　優子(ST)

１　単元名　「〇〇たんけんをしよう」

２　単元について

(1)　単元設定の理由

＜児童の実態＞

本グループは，５年生と６年生の男子３人女子２人で構成されている。これまでに，校外学習で公共施設や店舗，公共交通機関を利用してきている。校外でのいろいろな学習を通して，欲しい商品に応じて利用する店舗を選んだり，お店の人と挨拶や定型のやりとりをして買物をしたりすることができるようになってきている。一方で，店舗で扱われる商品について，作っている人や場所に興味・関心を示す児童は少ない。これは，興味・関心が自分と直接関わる商品そのものに限られていて，その先や背景にある人や世界にまで想像を広げて考えるための知識や情報を十分にもち得ていないからであると考える。また，学習したことや分かったことを伝えたいという意欲は高く，単語や２～３語文で伝えようとすることは増えてきているが，文字で書き表すとなると自分で書くことを決められなかったり，どのように書けばよいのか悩んだりする姿がある。この姿から，詳しく伝えるために必要な動詞や形容詞などを省略しても，普段の会話の中では伝えたいおよその内容が伝わることや，主語と述語などを用いて構文する方法の習得が十分ではないことが推測される。さらに，文やその他の表現方法の良さを感じたり，話し言葉以外の方法で伝えることに自信がもてなかったりすることに伴い，文や表，グラフ，絵などの表現方法を用いて書き表そうとする意欲が高まらず，その機会自体も少ないことが考えられる。

＜単元の意義・価値＞

以上の実態を踏まえて，本単元「〇〇たんけんをしよう」を設定した。児童の生活にとって「たんけん」とは，行った場所に何があるのか，または何ができ，自分にとってどんなによいことがあるのか，様々な期待をもてる活動であり，分かったり発見したりした感動を人に伝えたくなる体験である。これまで自分たちが知り得てきた事柄に,「たんけん」を通した新たな発見が加わることで,自分が関わる社会や自然について，より広い視野に立って捉えることができるようになる。また，調べて分かったことや発見したことを他の人にも伝えたいという，心が動くほどの体験を通して，主語，述語などの関係を整理しながら構文したり，表やグラフを活用したりすることなど，多くの人により分かりやすく伝えるための工夫について，児童がその必要性を感じながら学ぶことができると考えた。

＜ねらい＞

そこで本単元では，児童にとって身近な給食の食材について調べる活動を通して，これまで知らなかった食材の生産者や生産場所について調べたり，調べたことを文や表，グラフ，絵などを用いて分かりやすくまとめたりしながら，社会の仕組みに関する知識や興味・関心を広げていくことができるようにする。

＜指導観＞

具体的には，単元を通して，児童にとって身近で，学校給食週間と合わせて興味・関心がより一層高まってくる給食から野菜とパンに注目して調べ，それらの生産者や生産場所について知り，興味・関心の幅を広げることができるようにする。第一次では，給食の野菜クイズを通して，野菜について知らないことに気付き，調べたいという気持ちが高まるようにするとともに，普段，接する機会が少ない栄養士のところへ行くことで，質問することへの期待感が高まるようにしたい。その際，具体的な生活場面を想起することで，どのような質問や挨拶が必要かを思考・判断できるようにする。調べたことをまとめる活動では，主語や述語，修飾語に分けたカードを自分で操作して構文することで，内容を整理し自信をもって書くことができるようにする。また，調べた内容を算数科で学習している表やグラフに表す活動を通して，表し方を工夫することの良さに気付くことができるようにしたい。第一次では，教師と一緒に考えながら調べ方やまとめ方の方法の習得を図るようにする。第二次では，パンクイズに取り組むことで，知らないことに気付いたり，調べる意欲を高めたりして，質問内容や質問をする相手を考えるようにする。パン屋への校外学習では，質問カードやタブレット端末を用いて，お店の人とやりとりをしたり，写真を撮影したりすることができるようにする。第三次では，校外学習で調べてきたことを掲示物にまとめていく活動を行う。給食に出されるパンの人気投票を行うことで，表やグラフを用いることの良さに気付くことができるようにしたい。第四次では，第一次からまとめてきた掲示物を用いて，栄養士に説明したり，食堂に掲示したりする。全校児童生徒が利用する食堂に掲示して，他学部の先生や友達に見てもらう機会を設定することで，学習してきたことの達成感や多くの人に伝わる喜びを味わうことができるようにする。

＜展望＞

このような学習を通して，児童たちは，これまでの経験を通した直接的な関わりの中でのみ捉えてきた身近な物について，もっと詳しく知りたいと思い，他の物についても，自分で調べてみよう，聞いてみようとすることが増えていくと考える。また，書くという方法で自分の気持ちや考えが多くの人に伝わったという結果によって，書くことへの自信や意欲の高まりを期待したい。

⑵　実態

	社会の仕組みに関する興味・関心【生活】	書く，聞く，話すこと【国語】	絵や表，グラフの活用【算数】	授業の様子
Ｉ．Ｊ（５年，女）	これまでの校外学習等の経験から，店舗によって売っている商品が違うことに気付くことができている。商品の作り方や味などについて話をすることはあるが，その商品を作っている人や場所について考えたり，調べたりする経験は少ない。	単語や文を書く際に，文字が抜けたり，動詞や形容詞を書く順序が逆になったりすることがあるが，机の中に手作りのメモ帳を入れて使うなど，文字や文を書く意欲は高い。話の要点を聞いて単語や２語文程度で答えることができる。話す内容が転動することはあるが，メモやイラストを手掛かりに整理することで，内容を順序立てて話すことができる。	イラストが表す活動や感情などを読み取ることができる。文章から表の作成に必要な部分を抜き出すことはできるが，項目と数字を書き入れる際に，記入する場所を間違うことが多い。表から順番を読み取ることは難しかったが，グラフに表すことで，「１番多い，２番は…。」と説明することができる。	指名される前に答えたり，別の児童の答えを待つ間に答えを言ってしまったりするほど学習に対する興味・関心が高く，積極的に発表しようとする。知識や経験から思考することができ，予想を立てたり，友達の意見と組み合わせた考えを発表したりすることができる。
Ｎ．Ｓ（５年，女）	これまでの校外学習や家庭での利用を通して，よく利用する店舗やそこに売っている物に興味・関心が高く，「行ったことある。」と過去の経験を振り返って，知っていることを伝えようとする。特定の商品に対して，作っている人や場所，作り方について，知っていることや調べる経験は少ない。	３，４語文で伝えたい内容を話すことができる。書く内容を声に出しながら構文し，教師に確かめを求めることで，自信をもって書くことができる。漢字や片仮名を使って書くことは少ないが，見本を見て，漢字や片仮名を書き写そうとすることが増えている。慣れない人や場面では，一人で話すことは難しいが，話を聞いて内容を理解することはできる。	文字だけで提示するよりも，イラストを添えることで内容を想像しながら理解することができる。文章から表に整理する際に，「Ａが○個，Ｂが△個」と確認しながら整理することができた。作成した表を基に，棒グラフを作り，多い順番を答えることができる。	自信がある時や選択肢から選ぶ時は，自分から挙手をして発表することが増えている。緊張していたり，自信がなかったりする時は，友達に「一緒にしよう。」と誘って一緒に発表することができる。友達と一緒に考えたり，活動したりする時は，自分の意見よりも友達の意見を優先することが多い。
Ａ．Ｒ（６年，男）	初めての場所は，入ることを拒むときがあるが，店舗で買物をする経験はある。店舗によって買物をする場所，食べる場所という目的の違いを理解してきている。買物では，レジに行く，商品を渡す，お金を払う，お釣りを受け取る，という流れを教師と一緒に行うことで商品を得ることができることを理解している。	一文字ずつであれば，平仮名の向きに注目でき，逆さに提示された文字の向きを正しく貼り直すことができるようになってきている。言語指示を聞いて，うなずいたり，首を振ったりして返事をすることがある。話すことは難しいが，教師の言葉に合わせて音節を手でたたいて表現し，発表することができる。	表やグラフの理解は難しいが，色や形，量などの対応付けをすることができる。提示された２つのイラストを両方同時に触ろうとすることはあるが，どちらか一つを選択できることが増えてきている。貼る場所に枠を書いたり，指さししたりすることで，貼る場所や向きを考えて貼ることができる。	椅子に座ることが苦手で，教室の隅にある台やマットの上で授業に参加することが多い。始めや終わりの挨拶では，教師の言葉掛けを受けて，椅子に座って挨拶をすることができることもある。活動の際は，教師と一対一で活動することで，落ち着いて課題に取り組むことができる。
Ｋ．Ｍ（６年，男）	ＣＭや動画配信サイトの情報から，「○○行きたい。」や「○○好き。」と店舗や商品の名前を教師や友達に伝えることが多い。特定の商品に対して，商品名や売っている店舗を答えることはあるが，作っている人や場所について，答えることはほとんどなく，調べる経験も少ない。	主語が抜けることはあるが，伝えたいことを単語で伝えることができる。平仮名以外を用いて書こうとすることは少ない。自分の気持ちや感想を声に出して話し，教師が内容を整理して構文することで，文を書くことができる。聴覚に過敏さがあり，問い掛けにすぐに反応することは少ないが，話の内容は聞き取れていることが多い。	表に書かれている項目や数字を見て，多少の比較は難しいが，棒グラフを見ることで，３者の多少を判断して答えることができている。グラフの目盛りに数字を書きながらタイルを並べることで，棒グラフを作成することができる。イラストが何を表しているのかを考え，答えることができる。	聴覚過敏があり，イヤーマフを着用している。音声指示をする際は，名前を呼んで視線が合ってから話すことで，内容を理解して課題に取り組むことができる。思考が途切れることが多いが，手順等の視覚的な提示が手元にあると，自分で確認しながら課題に取り組むことができるようになってきている。
Ｔ．Ｋ（６年，男）	これまでの校外学習でバスや公共施設，店舗などを利用してきており，自分が写っている写真や動画を手掛かりにして，行った活動や買った商品などを想起することができる。売っている物や買うことへの興味・関心は高まっている一方で，特定の商品に対して，作っている人や場所について，関心を示すことは少ない。	発音が不明瞭ではあるが，単語をつなげて話すことができる。書くことに苦手意識があり，教師が書いた見本で確認しながら書くことが多い。動詞や形容詞の選択肢が示されると正しく選択し，文を書くことができる。平仮名や片仮名で書かれた文や単語を読むことはできる。教師や友達の話す内容については，聞き取ることができており，聞いた話から中心的な内容を単語で答えることができる。	イラストが示す動きや内容をすぐに理解したり，文字で示された内容に応じてイラストを選んだりすることができる。文章から項目と数量を読み取って，表に整理したり，表を基に棒グラフを作ったりすることができる。表よりも棒グラフで示した方が分かりやすいと理解できている。	苦手な内容や緊張した環境だと発表することは少ないが，学習への意欲は高く，自信がある時は，挙手することが多い。友達を支えにすることで，苦手なことにも挑戦しようとすることができる。友達との話合い活動では，友達の意見と自分の意見を比べて考えたり，提案したりすることもある。

３　単元目標　※　授業計画シート参照

４　指導計画　※　授業計画シート参照

５　本時の学習（15／20）

(1)　全体目標

調べたことを掲示物にまとめる活動を通して，パンの人気アンケート結果を表やグラフにして表したり，表やグラフから読み取った結果を文で書き表したりすることができる。　【生活，国語，算数】

(2)　個人目標

児童	個人目標
Ｉ．Ｊ （５年，女）	アンケート結果を一文ずつ読んで必要な内容を抜き出すことで，表の空欄に名前と数字を書いたり，構文カードを並べ替えて，人気のパンの順位を文に書き表したりすることができる。
Ｎ．Ｓ （５年，女）	アンケート結果からパンの名前と数字を探し，友達と一緒に蛍光ペンで色分けすることで，棒グラフを作成したり，構文カードを並べ替えて，分かった順位を文にして書いたりすることができる。
Ａ．Ｒ （６年，男）	棒グラフの項目の写真と同じ写真を合わせて貼ったり，棒の長さを手掛かりに，同じ長さのパネルを対応させたりして，棒グラフに表すことができる。
Ｋ．Ｍ （６年，男）	表の空欄を手掛かりに，必要な情報を文から読み取って表に書いたり，表から一位と二位を読み取り，文の空欄にパンの名前と数字を書き込んだりすることができる。
Ｔ．Ｋ （６年，男）	友達と一緒に目盛り棒を用いてグラフの目盛りを数えることで，棒グラフを書いたり，分かった順番を構文カードの空欄に書き込んで，文を構成したりすることができる。

⑶　指導及び支援に当たって

＜これまでの学習の様子と本児の学習活動の概要＞

児童たちは第一次で，学校の栄養士に給食の野菜について質問をする活動を通して，分かったことをメモしたり，メモを手掛かりにして文にまとめたりする方法を学習してきている。第二次では，更に調べたいことを考え，校外学習でパン屋に質問する活動を通して，分かったことをメモしたり，写真を撮ったりしてきている。第三次では，調べてきたことを，自分たちのメモを基にしてカードを作り，質問と答えを対応させながら整理したり，給食のパンメニューの人気アンケートをとったりしてきている。

そこで本時では，パンメニューの人気アンケートの結果を書いた文章を読み取って，表やグラフを作成する活動を行う。表作成グループとグラフ作成グループに分かれて活動を行い，それぞれが作った表やグラフから分かったことを文にすることで，どちらの表現方法でも同じことを伝えていることを確認し，どちらの表現方法が順位を考える際に分かりやすいのかを考えることができるようにしたい。この学習活動を通して，人気のパンの順位について知り，興味・関心をより一層広げていくとともに，表やグラフを作成して活用したり，分かったことや伝えたいことを構文して表現したりすることができるようにしたい。

＜導入＞

・　これまでの学習でまとめてきた掲示物を確認し，本時で取り組む箇所を具体的に示すことで，アンケート結果をまとめることに気付き，学習活動への見通しや期待感を高めることができるようにする。基　主

・　パンの人気アンケートの結果を，CT が読み上げることで，音声だけでは分かりにくいことや「書く」という方法に気付くことができるようにする。基　思

＜展開＞

・　表作成グループと棒グラフ作成グループに分かれて活動を行うことで，友達の活動の様子を手掛かりにしたり，互いに確認し合ったりしながら，課題に取り組むことができるようにする。基　人

・　表作成グループ（Ｉ．Ｊ，Ｋ．M)は，文章で書かれたアンケート結果から，一文ずつ書かれたカードを取り出し，名前と数字を探して蛍光ペンで色分けすることで，表にパンの名前と数字を対応させて整理することができるようにする。基　思　人

・　棒グラフ作成グループ(Ｎ．Ｓ，Ｔ．Ｋ)は，文章で書かれたアンケート結果から，一文ずつ書かれたカードを取り出すことで，パンの写真と数字を対応させながら，棒グラフの目盛りに線を引いて棒グラフを作成することができるようにする。基　思　人

・　Ａ．Ｒが作成するグラフは，写真やパネルをそろえる位置に厚みをもたせたり，色を付けたりしておくことで，写真と写真，棒グラフの棒の長さとパネルの長さを対応させて貼ることができるようにする。友達が作ったグラフを手掛かりにして教材を共有することで，友達と一緒にできたという達成感を味わうことができるようにする。基　思　人

・　構文カードを並び替えることで，作った表やグラフから分かったことを，「第〇位は，□です。△人が選びました。」の文型に構文して書くことができるようにする。基　主　思

＜終末＞

・　それぞれのグループで作成した表とグラフを，ホワイトボードに貼りながら，一位と二位を発表することで，表とグラフが同じことを表しているかを確認することができるようにする。基　人

・　三位はどのパンかを問い掛け，表とグラフのどちらが早く選べるかを考えることで，文と表とグラフのどれが分かりやすいかを選ぶことができるようにする。基　思　人

＜指導及び支援に係る配慮事項と小学部の児童に育てたい資質・能力との関連＞

基（基礎・基本）：　各教科の内容を身に付け，日常生活に必要な力を高める姿

主（主体性）：　興味・関心のある教材・教具を操作し，課題に取り組む姿

思（思考・判断・表現）：　教材・教具の操作を通して，できたことを実感し，できたことを教師や友達に表情や身振り，言葉などで伝える姿

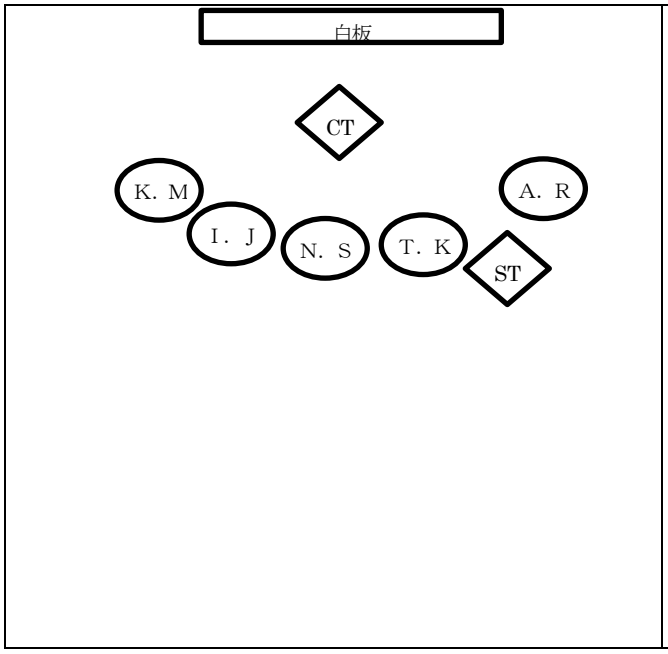
人（人間関係）：　設定された環境の中で共に活動する楽しさを味わい，教師や友達への興味・関心を高めながら，物や課題などを通してやりとりする姿

(4)　実際

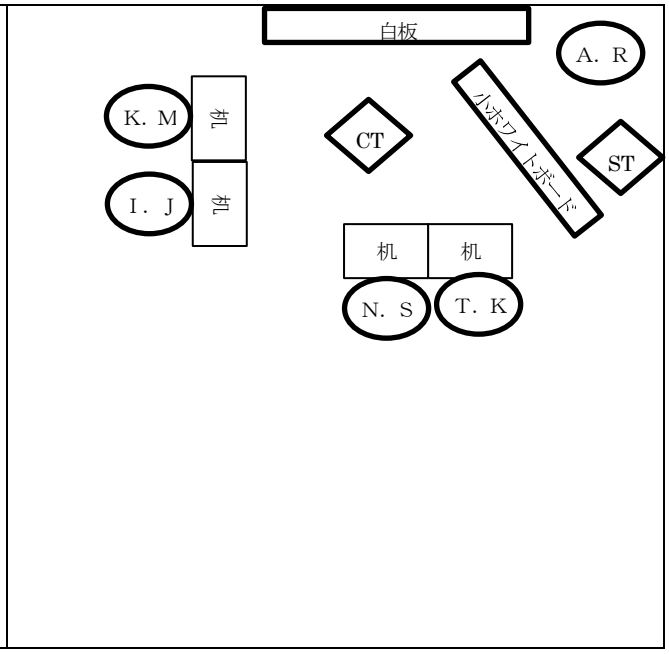
過程	主な学習活動	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 (10分)	1　始めの挨拶をする。 2　前時までの学習を振り返る。 3　本時のめあてと活動について確認する。 いちばんにんきのあるパンはなにかを　しらべよう！	・　当番は，全員が着席して挨拶ができる姿勢かを確認してから挨拶を行うようにする。 ・　校外学習時や人気アンケートを調べている様子の写真を貼った掲示物で，前時までの学習を振り返る。 ・　前時までに作ってきた掲示物から，本時で取り組む活動や学習内容を確認する。 ・　アンケート結果をCTが読み上げることで，文章で書くと分かりにくいことを実感し，他の方法を考えることへの意欲を高めることができるようにする。	・パンクイズ ・メモ ・掲示物 ・アンケート結果
展開 (25分)	4　アンケート結果をまとめる方法を考える。 (1)　文章を読む。 (2)　文章で提示する。 (3)　他の方法がないか考える。 5　グループに分かれて表とグラフを作成する。 【表グループ】：CT （Ｉ．Ｊ，Ｋ．Ｍ） ①　文から名前と数字を探して色分けを行う。 ②　表の作成を行う。 ③　順位を確認し，文で表す。 【グラフグループ】：ST （Ｎ．Ｓ，Ｔ．Ｋ） ①　文章から名前と数字を探して色分けをする。 ②　棒グラフの作成を行う。 ③　順位を確認し，文で表す。 （Ａ．Ｒ） ①　パンの写真と写真を対応させて貼る。 ②　棒の長さ対応を行う。	・　伝わりづらい方法から提示していくことで，他の表現方法があることに気付いたり，考えたりすることができるようにする。 ・　算数で取り組んだ好きなキャラクターランキングの学習を想起することで，「表」や「グラフ」といった表現方法に気付くことができるようにする。 ・　写真カードを使ってグループ分けをすることで，視覚的に自分のグループを確認し，友達と協働して活動できるようにする。 ・　STは，Ａ．Ｒと中心的に関わりながら，指導，支援を行う。情緒面の状態に応じて，友達の活動を見るように促したり，ついたて等を用いて活動に気持ちが向かいやすい環境を作ったりする。 ・　CTは，全体の活動を見守り，必要な支援を行う。その際，答えを導く言葉掛けではなく，「これは，どうかな？」と再考を促す言葉掛けを行うようにする。 ・　文章は，単文に分けることができるようにカードにしておくことで，情報量を調整しながら，名前と数を読み取ることができるようにする。 ・　Ｉ．Ｊ，Ｋ．Ｍ，Ｔ．Ｋ，Ｎ．Ｓは，文章で書かれたアンケート結果から，パンの名前と数字を蛍光ペンで色分けすることで，表やグラフ作成に必要な内容を読み取ることができるようにする。 ・　表のワークシートは，実態に応じて空欄の数を調整したものを用いる。 ・　Ｉ．Ｊ，Ｋ．Ｍは，表に書いた数字のみで多少比較するだけでなく，グラフグループが作成したグラフでも順位を確認することで，どちらが分かりやすいかを考えることができるようにする。 ・　グラフの目盛りを読み取る際は，１から数字が書かれた目盛り棒を使って確認することで，棒グラフの目盛りを間違わずに丸を書くことができるようにする。 ・　構文カードを並べ替えて，モデルとなる文を作ることで，自信をもって書くことができるようにする。 ・　Ａ．Ｒが作成するグラフは，小ホワイトボードに貼っておき，活動や操作がしやすい位置に移動できるようにしておく。 ・　STは，Ａ．Ｒの前に写真を提示し，一枚ずつ手渡しすることで，同じ写真を探して，重ねて貼ることができるようにする。 ・　Ａ．Ｒの棒グラフは，貼ったり外したりできるようにしておくことで，教師と一緒に確認しながら，量と量を対応付けてパネルを貼ることができるようにする。	・アンケート結果掲示用 ・写真カード ・アンケート結果操作用 ・蛍光ペン ・表ワークシート ・グラフワークシート ・目盛り棒 ・構文カード ・拡大グラフとパネル
終末 (10分)	6　グループごとに発表を行い，アンケート結果の表現方法としてどちらがよいかを決める。 7　学習を通して分かったことを確認し，次時の予告をする。 8　終わりの挨拶をする。	・　各グループが作成した表やグラフが同じ結果を表していることを確認するとともに，全員で第三位を考える際に，表とグラフのどちらがすぐに分かるかを考えることで，分かりやすい表し方を決めるようにする。 ・　本時のめあてと関連させながら，児童一人一人の活動を評価することで，本時の学習の達成感を味わうことができるようにする。	

(5)　場の設定

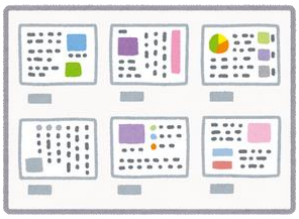
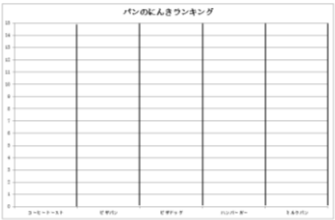
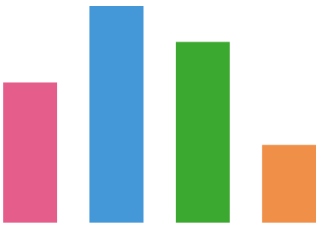
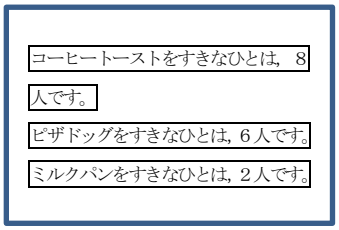
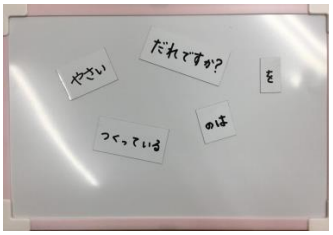
【集団学習場面】



【グループ学習場面】



(6)　教材・教具

掲示物	表ワークシート	棒グラフワークシート
		
これまでの学習で，児童が調べたことを書いてまとめたもの。学習が進むにつれて少しずつ完成していくことで，次は何についてまとめるのかを見通し，期待感を高めることができるようにする。	児童の実態に応じて，パンの名前やイラストが書かれている表と何も書かれていない空欄の表のワークシートを準備する。学びの様子に応じて，折り曲げて使用することができるようにする。	項目ごとに棒グラフを作成することができるように，項目を分ける線を太くしたもの。丸を書き込んだり，目盛り棒で数を確認したりしながら棒グラフを作成できるようにする。
棒グラフ(量の対応)	アンケート結果操作用	構文カード
		
棒グラフの棒部分に色枠だけを付け量の対応ができるようにしたもの。起点をそろえることができるように，厚みをつけ，繰り返し操作できるように，貼る面をテープで補強し，付け外すことができるようにした。	内容を読み取ることができるように，マグネットシートに一文ずつ分けて書いておいたもの。児童が自分で操作できるように，小ホワイトボードに貼って提示する。	主語と述語，助詞などを並べ替えて，構文するために用いるもの。構文に自信がない児童が，自信をもって構文し，書く際の見本にできるようにした。実態に応じて，助詞を含んだカードや助詞を分けたカードで構文するようにする。

⑺　評価

ア 全体目標

調べたことを掲示物にまとめる活動を通して，パンの人気アンケート結果を表やグラフにして表したり，表やグラフから読み取った結果を文で書き表したりすることができたか。　【生活，国語，算数】

イ 個人目標

児童	個人目標	児童の学びの姿	具体的な手立て	手立ての評価
Ｉ．Ｊ（5年，女）	アンケート結果を一文ずつ読んで必要な内容を抜き出すことで，表の空欄に名前と数字を書いたり，構文カードを並べ替えて，人気のパンの順位を文に書き表したりすることができたか。		文章の中から，一文ずつ取り出して蛍光ペンで色分けしたことは，本児が文の中から必要な内容を読み取り，表を作成することに有効だったか。 構文カードを並べ替える活動は，内容を整理した文を書くことに有効だったか。	
Ｎ．Ｓ（5年，女）	アンケート結果からパンの名前と数字を探し，友達と一緒に蛍光ペンで色分けすることで，棒グラフを作成したり，構文カードを並べ替えて，分かった順位を文にして書いたりすることができたか。		友達と一緒に確かめ合うことは，グラフを作成する課題に対して，自信をもって取り組むことに有効だったか。 構文カードを並べ替えて作った文を教師に確認することは，自信をもって文を書くことに有効だったか。	
Ａ．Ｒ（6年，男）	棒グラフの項目の写真と同じ写真を合わせて貼ったり，棒の長さを手掛かりに，同じ長さのパネルを対応させたりして，棒グラフに表すことができたか。		パンの写真の見本合わせや棒グラフの長さ対応に用いた教材・教具の大きさや素材は，本児が興味をもって操作し，課題に主体的に取り組むことに有効だったか。	
Ｋ．Ｍ（6年，男）	表の空欄を手掛かりに，必要な情報を文から読み取って表に書いたり，表から一位と二位を読み取り，文の空欄にパンの名前と数字を書き込んだりすることができたか。		名前と数字を色分けしたことは，本児が表を作成する際に必要な情報を読み取ることに有効だったか。 友達が作ったグラフで順位を確認することは，順位を読み取ったり，分かりやすい表し方を考えたりする際の手立てとして有効だったか。	
Ｔ．Ｋ（6年，男）	友達と一緒に目盛り棒を用いてグラフの目盛りを数えることで，棒グラフを書いたり，分かった順番を構文カードの空欄に書き込んで，文を構成したりすることができたか。		名前と数字を色分けしたことは，本児がグラフを作成する際に必要な情報を整理しながら，読み取ることに有効だったか。 構文カードを並べ替えて文を作る活動は，本児が自信をもって文を書くための手掛かりとして有効だったか。	

授業計画シート（各教科等を合わせた指導　ver.4）

学部	教科等名	学習集団（グループ名等）	単元・題材名	総時数（実施時期）
(小)・中・高	(生単)・作業	小学部3組	○○たんけんをしよう	２０時間（1～2月）

単元・題材の全体目標	教科等
ア　給食の野菜やパンについて調べる活動を通して，商品が生産，加工されている場所やそこで働く人に関心を向けることができる。	(国)・社・算／数・理・音図／美・体／保体・(生)・職／家
イ　野菜を作る人やパン屋さんに関する掲示物を作成する活動を通して，調べた事柄を写真やイラストで整理したり，図や表，文章で分かりやすく表したりすることができる。	(国)・社・(算)／数・理・音図／美・体／保体・(生)・職／家

児童生徒名	個人目標	児童生徒名	個人目標
Ｉ．Ｊ（5年，女）	ア　給食の野菜やパンに関するクイズの答えを考えることを通して，給食の野菜やパンについて知りたいことを考えたり，考えた質問をその仕事について知っている人に聞きに行って調べたりすることができる。 イ　野菜を作る人やパン屋さんに関して調べた事柄を写真やイラストで整理することを通して，問いと答えを対応させながら文で整理したり，グラフを読み取って分かったことをワークシートに書いたりすることができる。	Ａ．Ｒ（6年，男）	ア　校内の畑に行って収穫したり，パンを作っている様子を見学したりすることを通して，野菜やパンが売っている場所や作っている人を写真の中から選ぶことができる。 イ　友達と一緒に野菜やパンについてまとめる活動を通して，イラストに色を塗ったり，写真を選んで貼ったりして表やグラフの一部を作ることができる。
Ｎ．Ｓ（5年，女）	ア　給食の野菜やパンに関するクイズの答えを考えることを通して，給食の野菜やパンについての質問を考えて，友達と一緒に質問したり，質問の答えを聞き取ってメモしたりすることができる。 イ　野菜を作る人やパン屋さんに関して調べた事柄を写真やイラストで整理することを通して，表にまとめた数字をグラフに表したり，グラフから分かったことを短い文で書いたりすることができる。	Ｋ．Ｍ（6年，男）	ア　栄養士の先生に質問したり，パンを作る様子を見学したりすることを通して，野菜やパンを作っている人やその仕事について興味を示したり，聞いてみたい質問を考えて選んだりすることができる。 イ　野菜を作る人やパン屋さんに関して調べた事柄を写真やイラストで整理することを通して，グラフから「一番多い」や「一番少ない」を読み取ったり，その内容をワークシートの枠に単語を記入してまとめたりすることができる。
		Ｔ．Ｋ（6年，男）	ア　給食の野菜やパンに関するクイズの答えを考えることを通して，給食の野菜やパンについて知りたいことや聞きたいことを考えたり，選択肢の中から選んだりすることができる。 イ　野菜を作る人やパン屋さんに関して調べた事柄を写真やイラストで整理することを通して，表の数字をもとにグラフを作ったり，グラフから分かったことをワークシートに短い文で記入したりすることができる。

指導計画

学習指導要領との対応（各教科等の内容） 記入例：【教科名】／内容・＜資質・能力の三つの柱＞・（段階）	できるようになってほしいこと（姿）	次	時数	学習活動	「本校の児童生徒に育てたい資質・能力」を育てるための工夫
【生活科】 コ　社会の仕組みと公共施設 （イ）日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり，活用したりすること。　＜知・技＞（１・３） コ　社会の仕組みと公共施設 （ア）日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり，それらを表現すること。　＜思・判・表＞（１・３） 【国語科】 Ａ　聞くこと・話すこと イ　経験したことを思い浮かべ，伝えたいことを考えること。 エ　挨拶や電話の受け答えなど，決まった言い方を使うこと。　＜思・判・表＞（３） Ａ　聞くこと・話すこと イ　身近な人からの話し掛けに注目したり，応じて答えたりすること。 ウ　伝えたいことを思い浮かべ，身振りや音声などで表すこと。　＜思・判・表＞（１） Ｂ　書くこと ア　身近で見聞きしたり，経験したりしたことについて書きたいことを見付け，その題材に必要な事柄を集めること。 イ　見聞きしたり，経験したりしたことから，伝えたい事柄の順序を考えること。　＜思・判・表＞（３） Ｂ　書くこと ア　身近な人との関わりや出来事について，伝えたいことを思い浮かべたり，選んだりすること。 イ　文字に興味をもち，書こうとすること。　＜思・判・表＞（１） 【算数】 Ｄ　データの活用 イ(ｲ)㋐　身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し，多少を読み取って表現すること。　＜思・判・表＞（２）	ア　教師と一緒に野菜を収穫しようとすること。　(A.R) ア　野菜について，「農家が作っている」ことや「畑で作っている」ことが分かること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　質問に対する答えの部分を聞き取ってメモしたり，メモしたことを整理して文に書いたりすること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　使用されている野菜の量を数字で表に書いたり，表を基に棒グラフを書いたりすること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　棒グラフを見て，「一番多いと一番少ない」や使用量の多い野菜を順番に並べたりすること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　棒グラフ上の量とパネルを合わせること。　(A.R) イ　教師と一緒に，イラストや写真を選択しながら表にまとめること。　(A.R)	一	7	1　給食の食材（野菜）について調べる。 (1)　給食クイズ(野菜)をする。 (2)　分からなかったことの調べ方を考える。 (3)　質問メモを作ったり，聞く時に必要な挨拶を考えたりする。 2　栄養士の先生に聞きに行く。 3　聞いてきたことをまとめる。 (1)　問いカードと答えカードを合わせて整理する。 (2)　野菜の量を表に整理したり，グラフに表したりする。 (3)　分かったことをワークシートにまとめる。 (4)　模造紙に書かれたレイアウト枠を手掛かりに，分かったことを書いたり，イラストを貼ったりして掲示物を作る。	・　児童にとって身近な給食を素材にすることで，未知のことに気付き，知りたいという気持ちを高めることができるようにする。 ・　教師が野菜に関するクイズを出すことで，知っていることや知らないことに気付き，正解を調べる必要があることに気付くことができるようにする。 ・　校内にいる先生を相手にすることで，緊張せずに質問することができるようにする。 ・　Ｑ＆Ａの形式で，分かったことを整理することで，教師や友達と一緒に文を考えることができるようにする。 ・　質問と答えをカードにまとめることで，どの順番でまとめると良いのかを考えたり，友達の意見を聞いたりすることができるようにする。
	ア　調べて分かったことを手掛かりにして，他の食材について調べてみたいという姿。　(K.M, T.K, I.J, N.S) ア　これまでの学習を生かして，「聞きに行く」という方法に気付くこと。　(K.M, T.K, I.J, N.S) ア　知りたいこと，分からないことを質問カードに記入すること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) ア　教師と一緒に出掛けた場所で商品やお店の外観の写真を撮ること。　(A.R) ア　教師の挨拶に合わせて，礼をしたり，お願いの身振りをしたりすること。　(A.R)	二 三	5	2　他の食材（パン）について調べる。 (1)　給食クイズ(パン)をする。 (2)　分からなかったことの調べ方を考える。 (3)　質問メモを作る。 (4)　栄養士の先生に聞きに行く。 (5)　もっと詳しく知るための方法を考える。 3　調べるために校外学習へ行く。 (1)　どこに行くか計画を立てる。 (2)　質問メモを作ったり，聞くときに必要な挨拶を考えたりする。 (3)　校外学習（パン屋さんとコンビニエンスストア）	・　一次と同じ流れで疑問に気付くような活動を設定することで，学習したことを生かして，新しい疑問について調べようという気持ちを高めることができるようにする。 ・　パンの食べ比べをすることを通して，パンを売っているお店とパンを作っているお店の違いに気付くことができるようにする。 ・　友達とペアになって質問を考え，質問カードを作ることで，初めての人に対しても自信をもって質問できるようにする。 ・　自分の得意なことを生かして，質問する人とメモを取る人で役割分担をして，練習する時間を設定する。 ・　パン屋さんとコンビニエンスストアで質問することで，２つのお店で売っているパンの違いについて気付くことができるようにする。
	イ　ビデオや写真，自分のメモを手掛かりに，質問に対する答えの部分を書き表すこと。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　教師と一緒に写真を選び，友達がまとめている模造紙に写真やイラストを貼ること。　(A.R) イ　人気のパンを数字で表に書いたり，表を基に棒グラフを書いたりすること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　棒グラフを見て，「一番多いと一番少ない」や人気のパンを順番に並べたりすること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　棒グラフ上の量とパネルを合わせること。　(A.R)	三	7 本時 (2/7)	4　調べて分かったことをまとめる。 (1)　写真やビデオで振り返る。 (2)　質問カードと答えカードを合わせて整理する。 (3)　好きなパン投票の数を表に整理したり，グラフに表したりする。 (4)　分かったことをワークシートにまとめる。 (5)　模造紙に書かれたレイアウト枠を手掛かりに，分かったことを書いたり，イラストを貼ったりして掲示物を作る。	・　ビデオで振り返る活動で質問に対する答えをメモするようにすることで，答えの確かめをしながら振り返ることができるようにする。 ・　どの順番で整理していけばよいかを友達と質問カードを並べ替えながら話し合うようにする。 ・　教師の言葉掛けやビデオを手掛かりに，写真やイラストを選択して友達に手渡したり，自分で枠の中に貼ったりする。 ・　「始め－中－終わり」を意識して文を書くことができるように，手掛かりとなる文のモデルを提示する。
	イ　お礼の気持ちを言葉や身振りで伝えること。　(A.R) イ　分かったことを，作った掲示物を使って伝えること。　(K.M, T.K, I.J, N.S) イ　伝わる喜びを味わうこと。　(全員)	四	1	5　単元を通して分かったことを栄養士の先生に報告して，食堂にまとめた掲示物を貼る。	・　自分たちが調べて分かったことを，栄養士の先生だけでなく，学校の友達にも伝えることで，調べたことの達成感を味わうことができるようにする。

＜各教科等との関連＞	
○生単「でかけよう」，「かいものにでかけよう」	○国語「せつめいぶんをよもう」，「ただしくきこう，つたえよう」 ○算数「かぞえよう」

＜実施時期や時数に関する評価＞※単元・題材終了後に手書き	
○実施時期 適　当　・　要検討（　　頃）	○必要と思われる時数 適　当　・　要検討（　　時間程度必要）